

(仮訳)

11月1日は自衛隊記念日です。本年は、日本がジブチに自衛隊拠点を開設して10周年の記念すべき年に当たり、ジブチ国民の皆さんに、日本国自衛隊と、ジブチを拠点に自衛隊が実施している活動について理解を深めていただきたいと思います。個人的には、40年間にわたり海上自衛官として奉職してきたので、ジブチにおける自衛隊の活動を大いに誇りに思っています。

日本は、四面を囲む海に守られて千五百年以上に亘り外国からの侵略を免れてきました。19世紀半ば、欧米の植民地侵略に対抗すべく、西欧式の帝国陸海軍を創設し独立を維持しました。しかし第二次大戦の敗北とともに、一旦、陸海軍は解体され、1954年、陸海空自衛隊という名前で再スタートを切りました。

自衛隊はその名が示すとおり軍事的侵略から日本を守るために作られた組織です。近年、技術の発展と経済のグローバル化で、日本から離れた世界の出来事が日本の安全保障に影響を与えるようになってきました。これにともない、国際的安定増進に寄与し、紛争を未然に防ぐことが自衛隊の重要な役割となってきました。

日本政府は、「自由で開かれたインド太平洋」ビジョンにより多角的・多層的な安全保障協力を戦略的に推進しています。このビジョンは拓かれた包摂的な構想で、法の支配、航行の自由、自由貿易の普及・定着といった普遍的価値の追求、アジアとアフリカの連結性の向上による経済的繁栄の追及、そして平和と安定の確保を3つの柱としています。重要な点は、アフリカのオーナーシップを尊重しつつパートナーシップを発揮することです。インド太平洋は国際公共財としてアジアとアフリカを繋ぐ大動脈であり、その平和と安定のために友好国との安全保障協力・交流が推進されています。海洋に焦点を当てたこのビジョンでは、海上安全保障の確保は特に重要です。

海賊は現代における海上交通に対する大きな脅威です。アデン湾における海賊の問題は、2008年の国連安保理決議で注目を集め、この決議に基づき、多くの国が国際的な海運の安定のために立ち上がりました。

多くの国の努力の結果、年間200件以上あったこの海域での海賊事象は、2013年以降激減し、今では被害なしという状況です。しかし、海賊行為が生起する根本原因であるソマリアのガバナンスは改善されず、イエメンの混乱も続いています。各国の軍隊が引き揚げて抑止力がなくなった途端に、海賊が横行することは自明です。そのため、海賊対処のための粘り強い努力の継続が求められています。

海賊対処活動は、日本が国際社会に対して防衛力を以て貢献するという点で大きな転機を

もたりました。日本は、2009年以降、この地域に護衛艦と哨戒機を常時展開しています。日本から1万キロ以上離れたアデン湾で連続して活動するためには補給整備の拠点が必要です。平和で安定した友好国ジブチはそのために理想的な場所です。ジブチからの支援のおかげで、日本の護衛艦は、12年半にわたり24時間365日、一日も欠かさずアデン湾で哨戒活動を実施しています。ジブチ空港を飛び立った哨戒機は合計約3,000フライト、3日に2回の割合で哨戒飛行を実施しています。

2011年に、自衛隊は、ジブチ政府の寛大な同意を得てジブチ空港隣接地に活動拠点を開設しました。自衛隊にとって初の、そして唯一の海外での活動拠点です。活動の目的は海賊対処ですが、180名の自衛官のプレゼンスは、必然的にジブチ国民が日本人と接触する機会を増加させました。彼等一人ひとりが外交官として、日本とジブチの友好のために活躍しています。

隊員は積極的にジブチ国民と交流することを楽しみにしています。自衛隊拠点内だけでなく、大学やCDCなど町の中で、柔道や空手等の武道教室を開催しました。折り紙や書道などの文化紹介行事も行いました。日本の著名な教育家福澤諭吉に因んで名付けられたフクザワ小中学校で様々な交流を行いました。隊員は進んで街中のゴミ収集を行いました。また、逆に、拠点や寄港中の艦内で、ジブチの民芸品が展示され販売され、隊員がジブチの文化に触れる機会も多くありました。

多くの国民の記憶にまだ新しいと思いますが、2019年11月の豪雨と洪水の際には、7日間にわたり、延べ277名の隊員と30両の車両により、ジブチ市内の小・中学校の排水作業や支援物資の輸送を行いました。隊員は、自分達を温かく迎え入れてくれているジブチの国民の力になれることを、心から喜びに感じ誇りに思っています。

コロナ禍により、昨年からこのような交流ができなくなったことは実に残念なことであり、世界が一日も早くコロナ危機を脱し、自衛官とジブチ市民の交流が再開されることを切望しています。

海上交通の大動脈であるこの海域でひとたび海賊被害が増加すると、グローバル化した世界の経済への影響は計り知れないものがあります。ジブチは、アフリカで最も効率的港湾と賞賛される港湾を有し、GDPの6割以上を港湾収入に依存しています。したがって、海上交通に滞りが生じると、ジブチの経済に直接影響を及ぼすことになります。日本は、ジブチを拠点にして世界の平和と安定を守るための海賊対処活動を行っていますが、その行動が同時にジブチの安全保障にも寄与していることを大変誇りに思っています。

日本政府と自衛隊は、これからもジブチ政府と国民の対等で誠実なパートナーとして共に歩み続けて参ります。